

### Ⅲ 重点施策への関心・認識

鳥取県が重点的に施策を展開している事業についての認識や意識をお聞きます。

問5 「男性の育児参加の推進」などを目的とした施策やフレーズのうち、あなたをご存知のもの・聞いたことのあるものをお選びください。(〇はいくつでも)

～『イクメン』は約9割が認知～

「男性の育児参加の推進」を目的とした施策やフレーズのうち、「イクメン」が87.8%と9割の認知度があり、次いで「イクボス」が41.9%と続いているが、「とっとりイクメンプロジェクト」「カジメン」、「パパママ育休プラス」等は1割程度となっている。

年代別でみると、10～50歳代で「イクメン」、30～60歳代で「イクボス」の認知が高い。

性・年代別でみると、男性の20歳代は「イクボス」、30歳代は「カジメン」、また20～30歳代は「とっとりイクメンプロジェクト(鳥取県施策)」の認知が高い。女性は30～50歳代で「イクボス」「とっとりイクメンプロジェクト(鳥取県施策)」、また50歳代では「カジメン」「パパママ育休プラス」の認知が高くなっている。

図20 「男性の育児参加の推進」を目的としたフレーズの認知度  
(n=1,450)

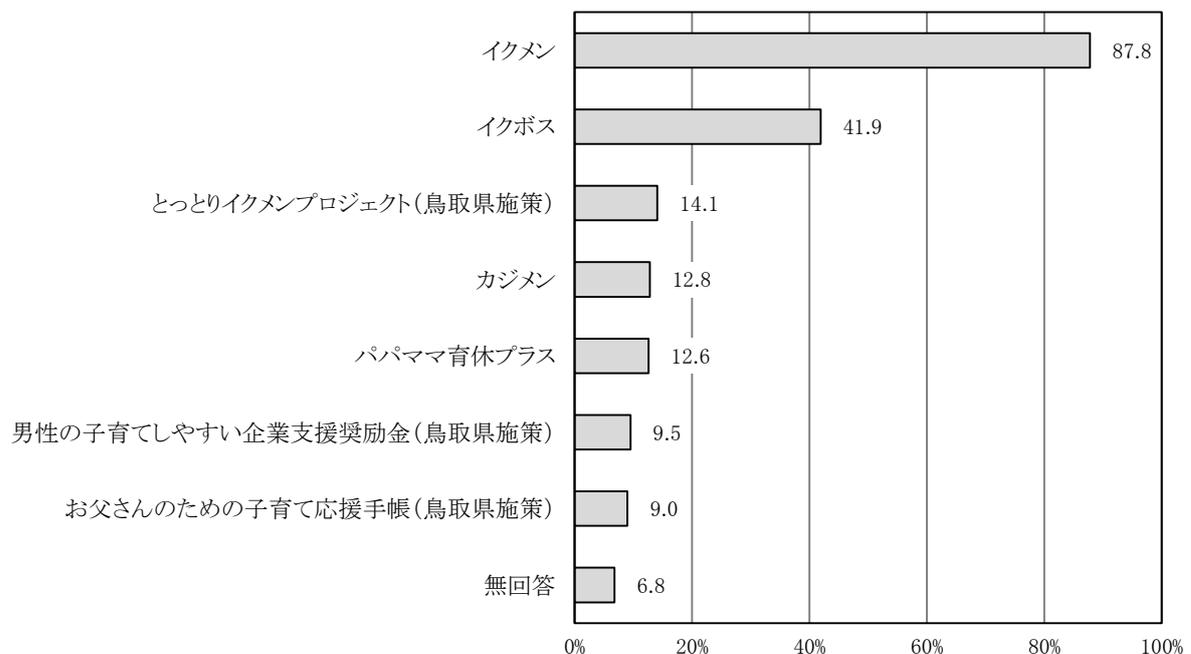
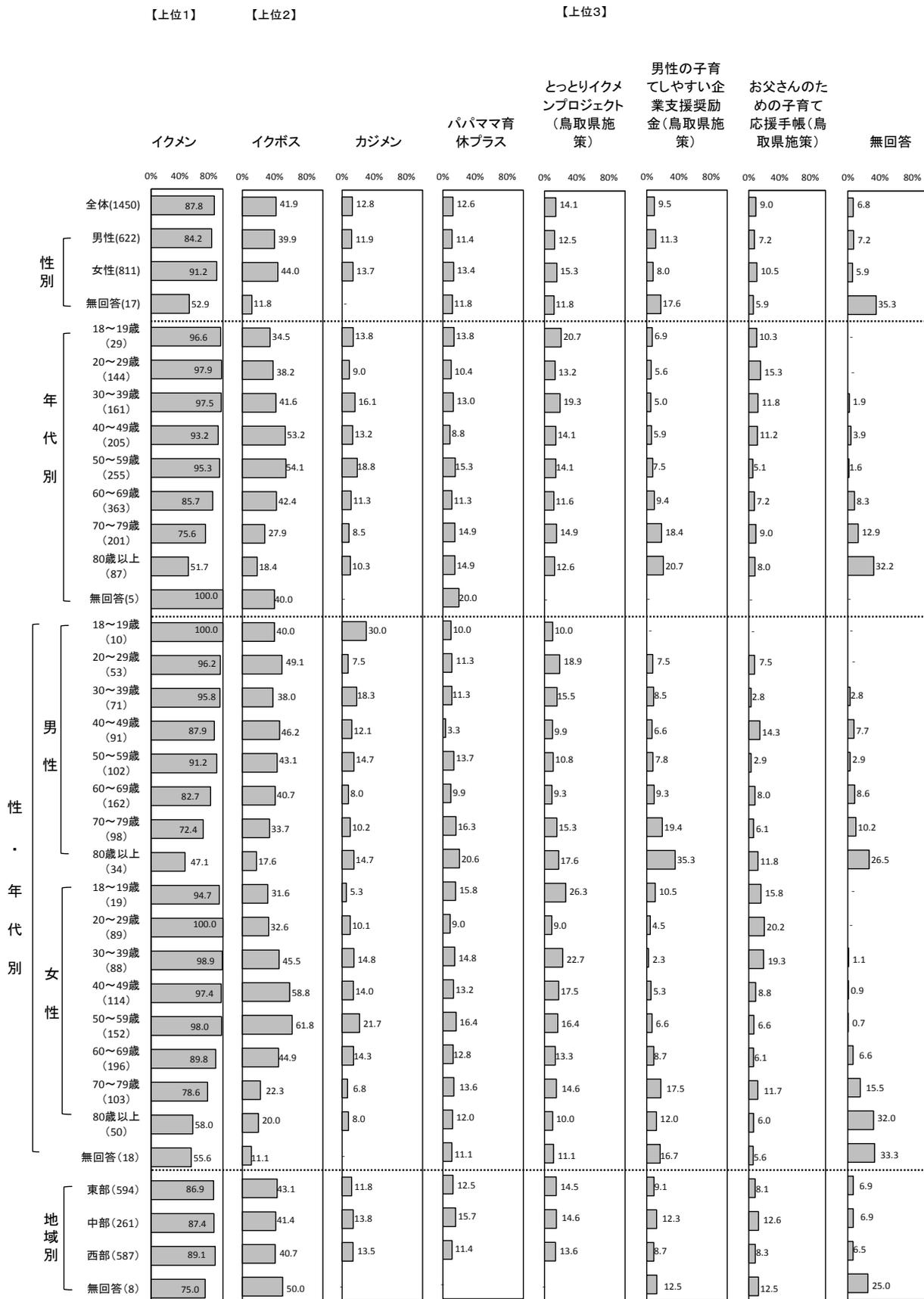


図 21 「男性の育児参加の推進」を目的としたフレーズの認知度



問6 あなたは、男性が育児に積極的に参加していくことについて、どう思いますか。(○は1つ)

～良いことだと感じている人が約9割～

男性が育児に積極的に参加していくことについて、「とても良いことだと思う」が49.1%、「良いことだと思う」が38.4%と、良いことだと感じている人が87.5%と約9割ある。一方、「どちらかといえばあまり良くないと思う」が0.8%、「良くないと思う(必要性がないと思う)」が0.2%と否定的な意見は1.0%にとどまっている。

年代別で見ると、「とても良いことだと思う」という意見は年齢が低くなるにしたがって高い割合となっている。

性・年代別で見ると、男性では20～30歳代、50歳代が良いことだとの認識が高く、女性では20～60歳代の幅広い年齢層で良いことだとの認識が高くなっている。

図22 男性が育児に積極的に参加していくこと  
(n=1,450)

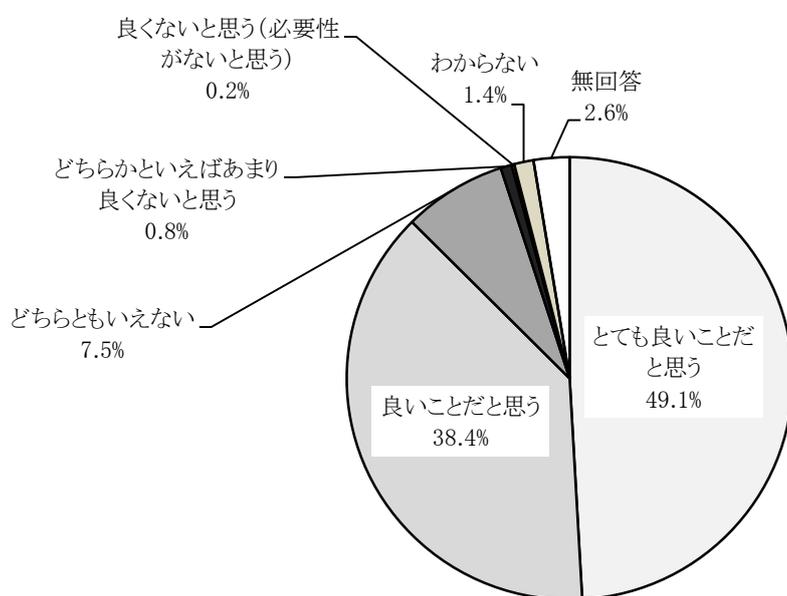
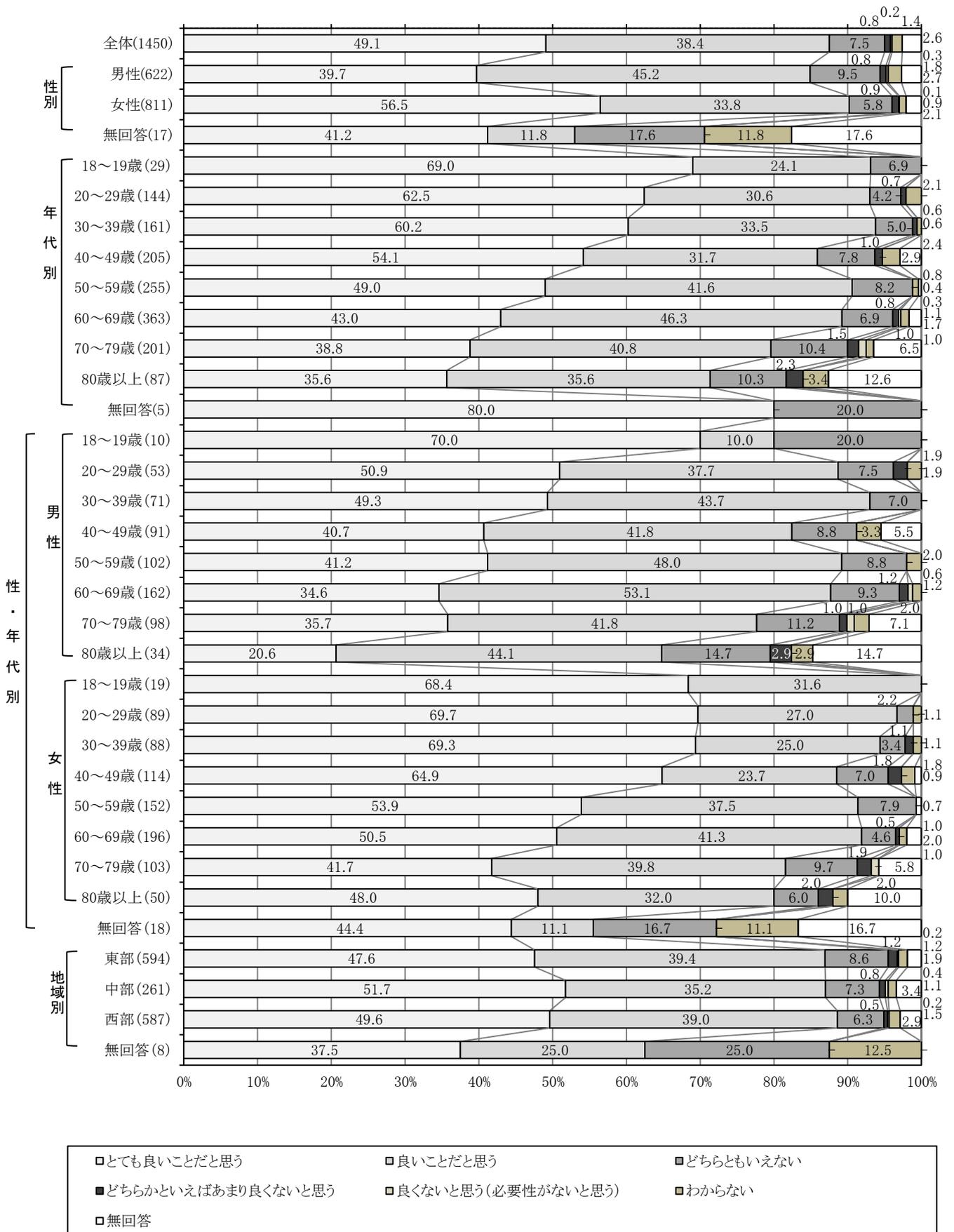


図23 男性が育児に積極的に参加していくことについて



問7 男性の育児参加を促進するために、行政がとるべき必要な施策は何だと思えますか。  
(〇はいくつでも)

～男性の育児参加休暇取得に関しての企業・家庭に対する経済的支援や

男性の育児参加休暇の義務化が必要～

男性の育児参加促進のための必要な施策は、上位項目は「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が48.7%、「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての家庭に対する経済的支援(補助金制度)」が48.6%、「男性の育児参加休暇(育児休業)取得の義務化」が44.6%と続き、『企業・家庭への経済的支援、育児休暇の義務化を必要』とする意見が多くみられる。

年代別でみると、20～30歳代で「男性の育児参加休暇(育児休業)取得の義務化」「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての家庭に対する経済的支援(補助金制度)」が高い。

性・年齢別でみると、男性の30歳代、60歳代で「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」、20～30歳代では「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての家庭に対する経済的支援(補助金制度)」の割合が高く、女性では20～30歳代で「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」「男性の育児参加休暇(育児休業)取得に関しての家庭に対する経済的支援(補助金制度)」、10～40歳代で「ワークライフバランスを実現できる労働環境整備の手助け」の割合が高くなっている。

図24 男性の育児参加を促進するために、行政がとるべき施策  
(n=1,450)

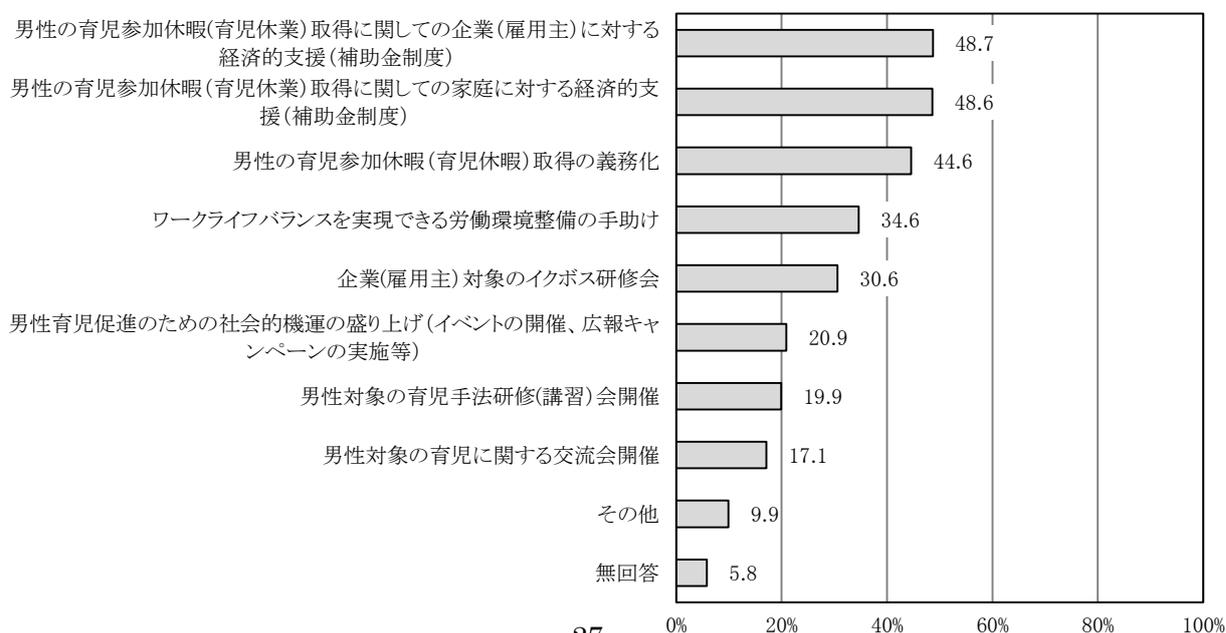
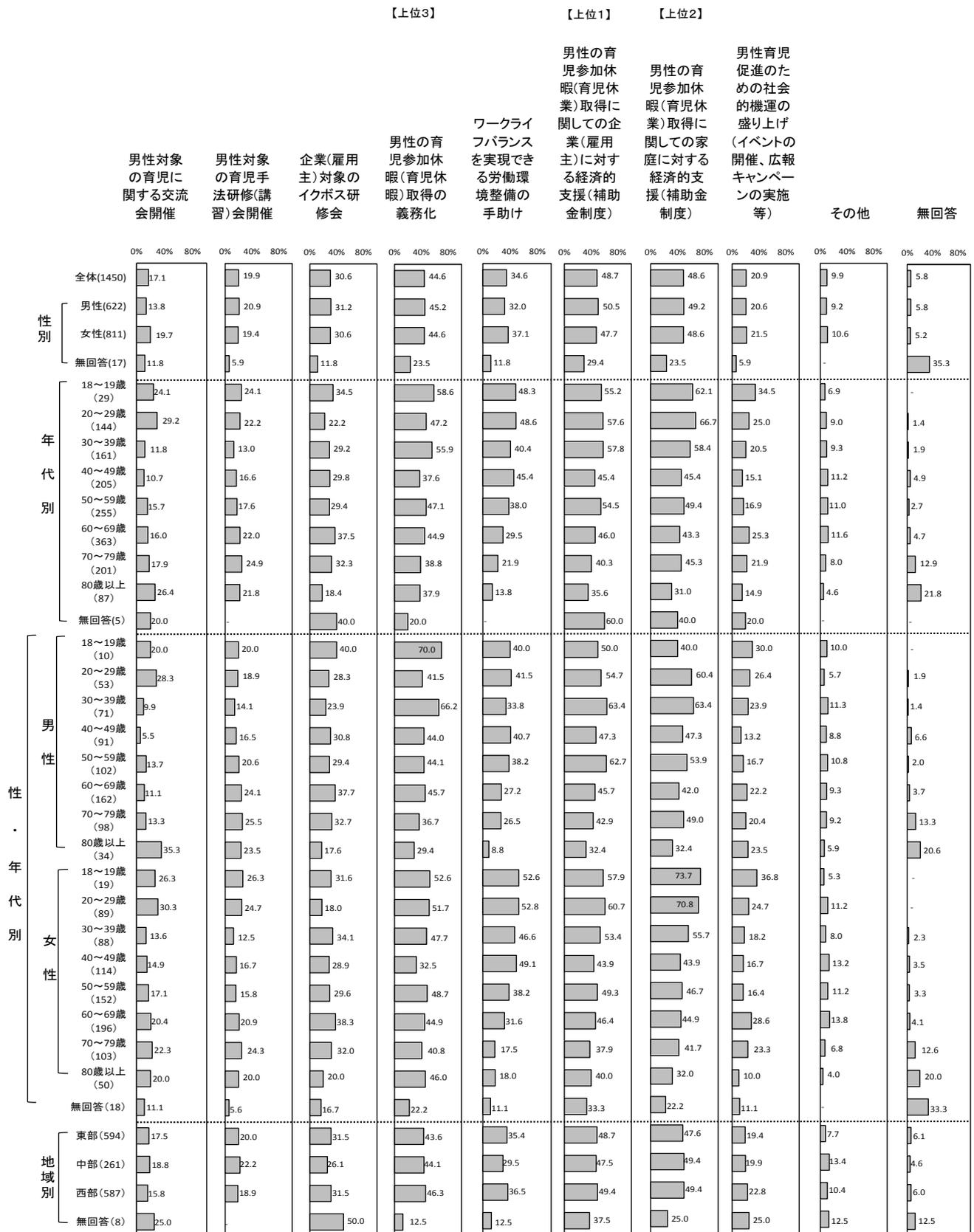


図 25 男性の育児参加を促進するために、行政がとるべき施策



問8 鳥取県内の男性の育児休業取得率は3%未満です。男性の育児休業取得が進まない要因は何だと思いますか。(〇は3つまで)

～「経営者、上司等の理解不足により、育児参加休暇(育児休業)の取得がしづらいため」  
 「所得が下がるなど経済的に負担」「子育て＝女性の役割という意識」が上位～

男性の育児休業取得が進まない要因は、「経営者、上司等の理解不足により、育児参加休暇(育児休業)の取得がしづらいため」が49.7%と最も多く、次いで「所得が下がるなど経済的に負担となるため」が47.3%、「子育て＝女性の役割という意識があるため」が43.4%と続き、『経営者、上司の理解不足や所得への影響面、意識面を要因とする意見』が多くみられる。

性別でみると、「子育て＝女性の役割という意識があるため」は男性に比べ女性の割合が高くなっている。

年代別でみると、50～60歳代は「経営者、上司等の理解不足により、育児参加休暇(育児休業)の取得がしづらいため」、20～50歳代では「所得が下がるなど経済的に負担となるため」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の30歳代、50～70歳代は「経営者、上司等の理解不足により、育児参加休暇(育児休業)の取得がしづらいため」、20～60歳代は「所得が下がるなど経済的に負担となるため」の割合が高い。女性の50～60歳代は「男性が長時間労働等により育児に従事する時間が確保できないため」、20歳代・40～60歳代は「経営者、上司等の理解不足により、育児参加休暇(育児休業)の取得がしづらいため」、20～50歳代では「所得が下がるなど経済的に負担となるため」の割合が高くなっている。

図26 男性の育児休業取得が進まない要因  
(n=1,450)

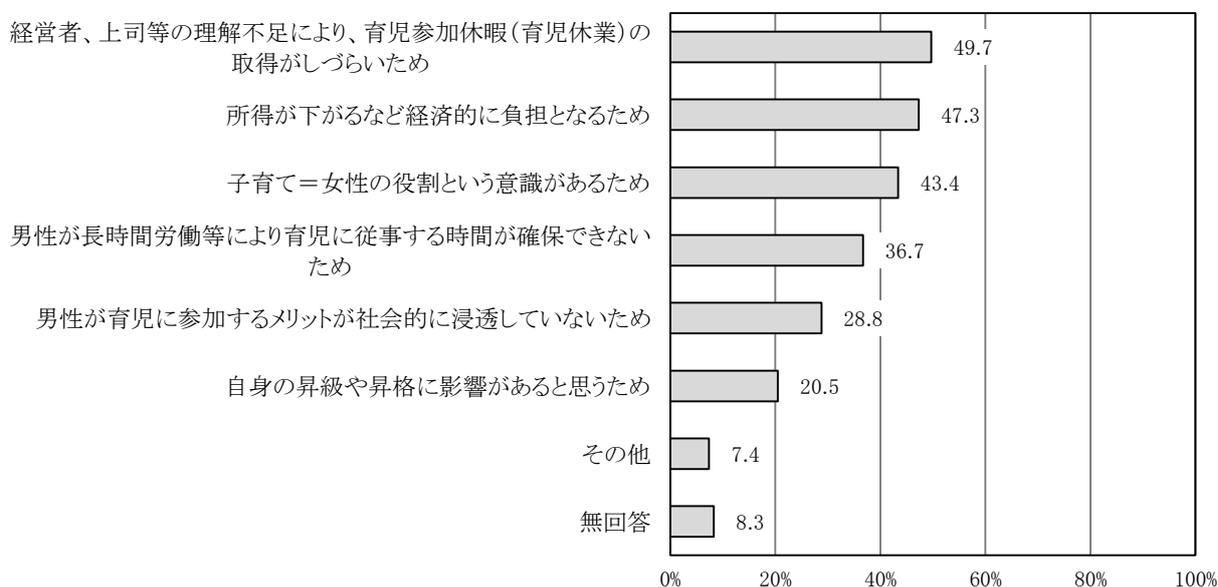
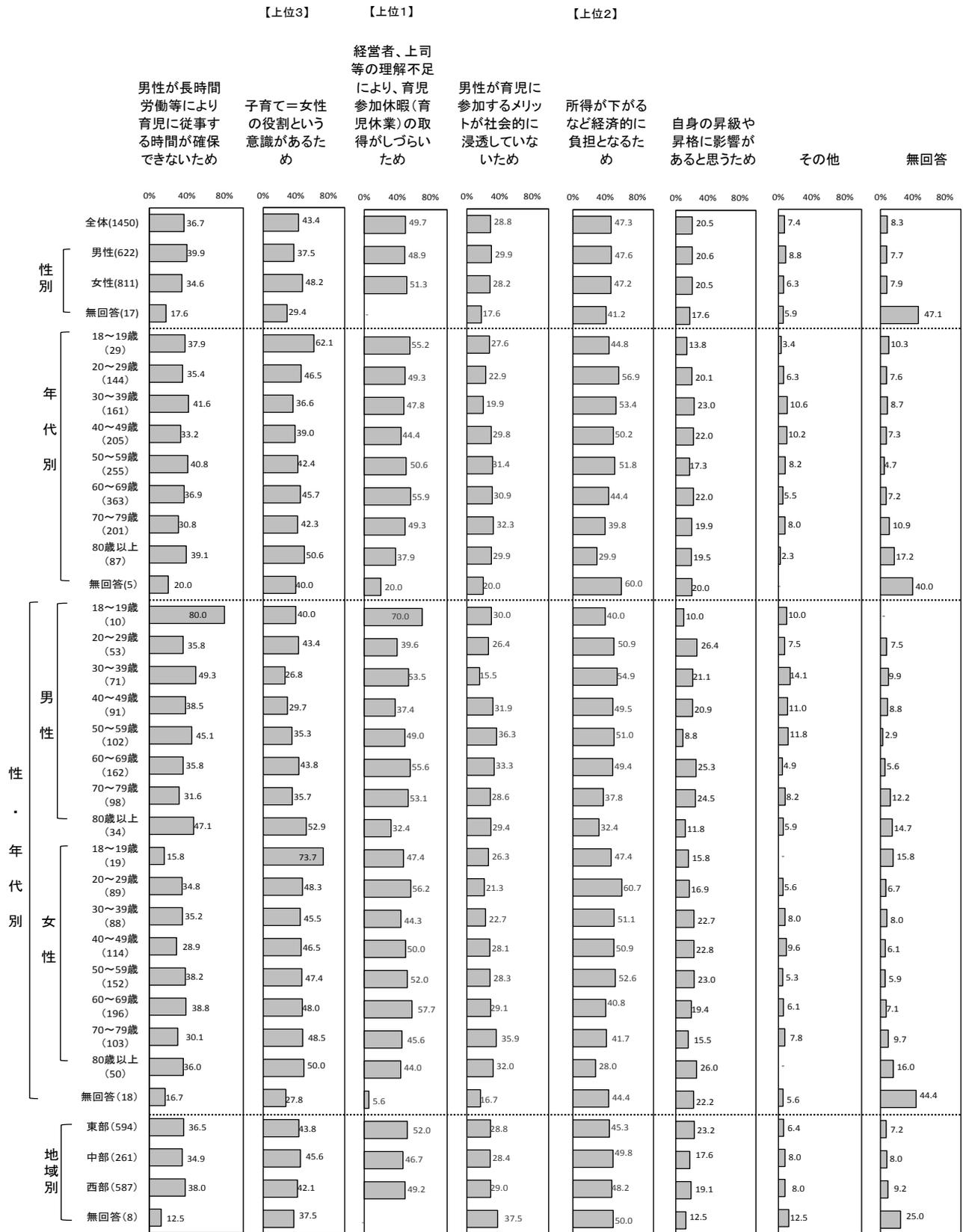


図 27 男性の育児休業取得が進まない要因



## <女性の活躍推進について>

問9 あなたは、次の言葉をご存知ですか。それぞれひとつずつに○をしてください。

～認知度は「ワーク・ライフ・バランス」が約3割、「男女共同参画社会」が約5割～

ワーク・ライフ・バランスの認知度について、「知っている」が33.0%、一方、「知らない」が29.9%と共に約3割である。

男女共同参画社会の認知度について、「知っている」が54.1%と約5割強ある。一方、「知らない」が11.2%と約1割となっている。

年代別でみると、20歳代・40歳代で「ワーク・ライフ・バランス」の認識が高く、また20歳代・50歳代で「男女共同参画社会」の認識が高い。

性・年代別でみると、男性の20～50歳代で「ワーク・ライフ・バランス」の認識が高く、20歳代・50～60歳代で「男女共同参画社会」の認識が高い。女性の20歳代・40～50歳代で「ワーク・ライフ・バランス」の認識が高く、20歳代・40～60歳代で「男女共同参画社会」の認識が高くなっている。

図28 ワーク・ライフ・バランス  
(n=1,450)

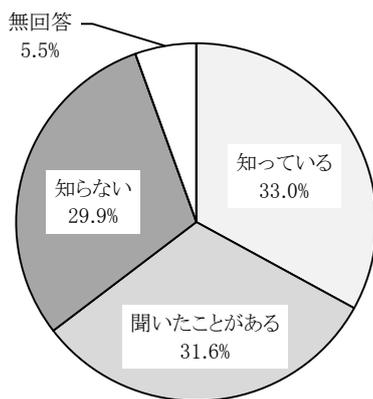


図29 男女共同参画社会  
(n=1,450)

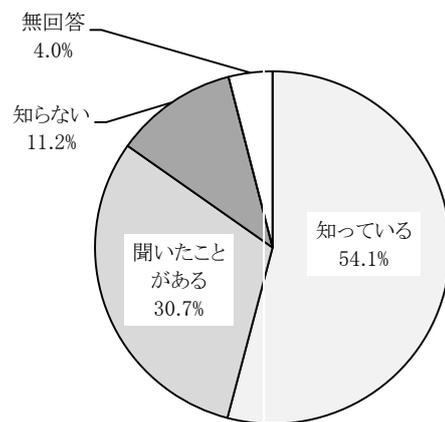


図30 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか

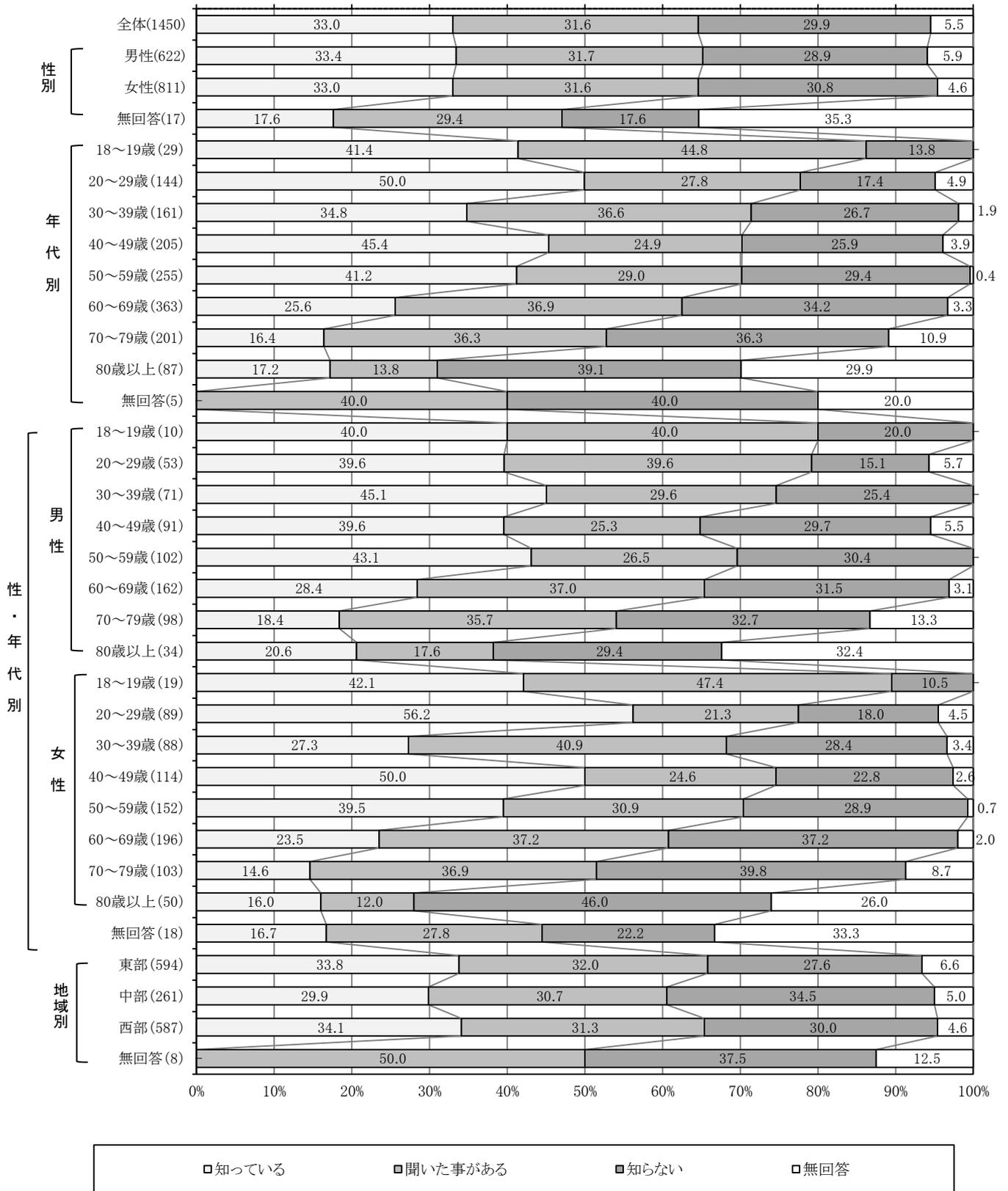
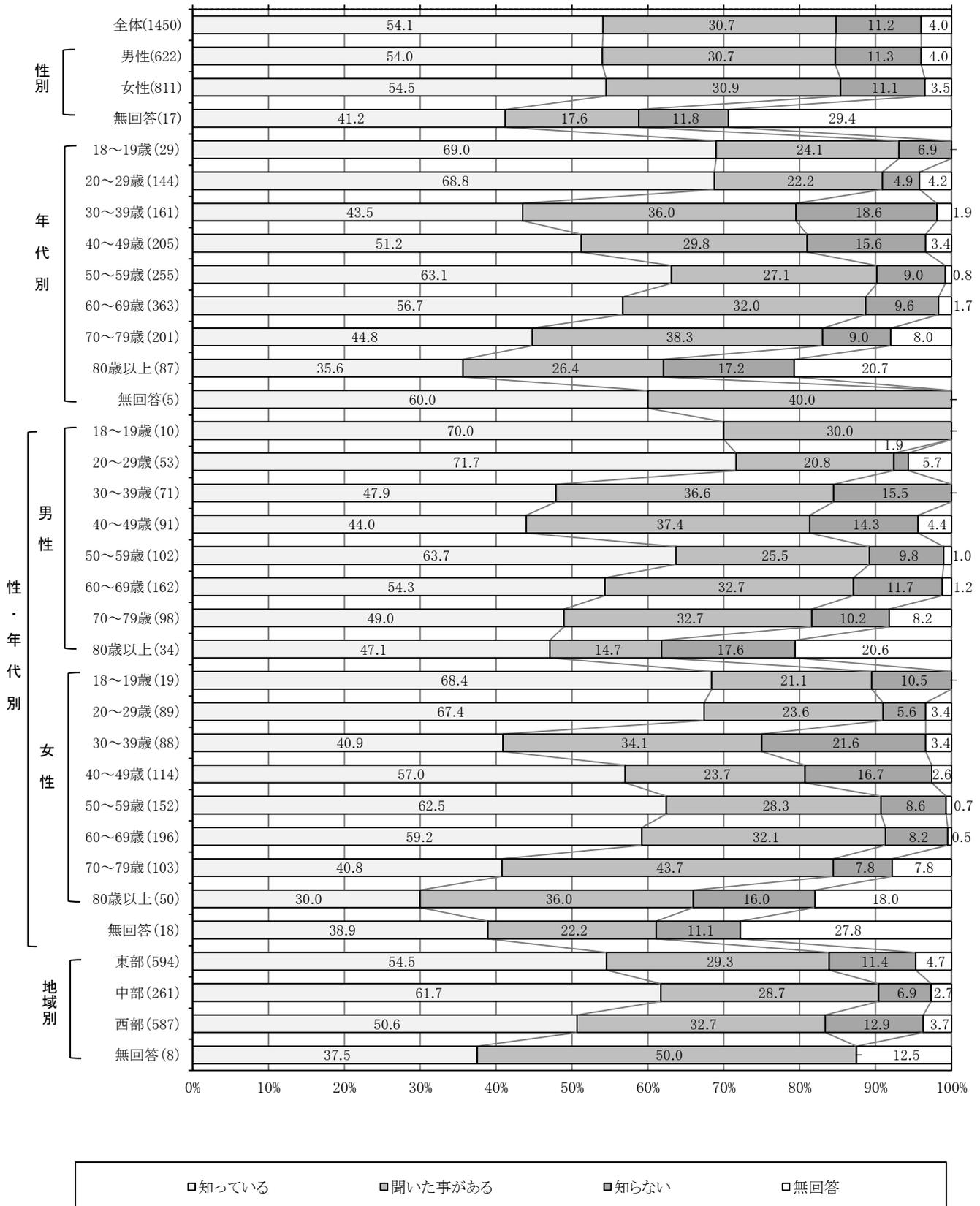


図31 「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか

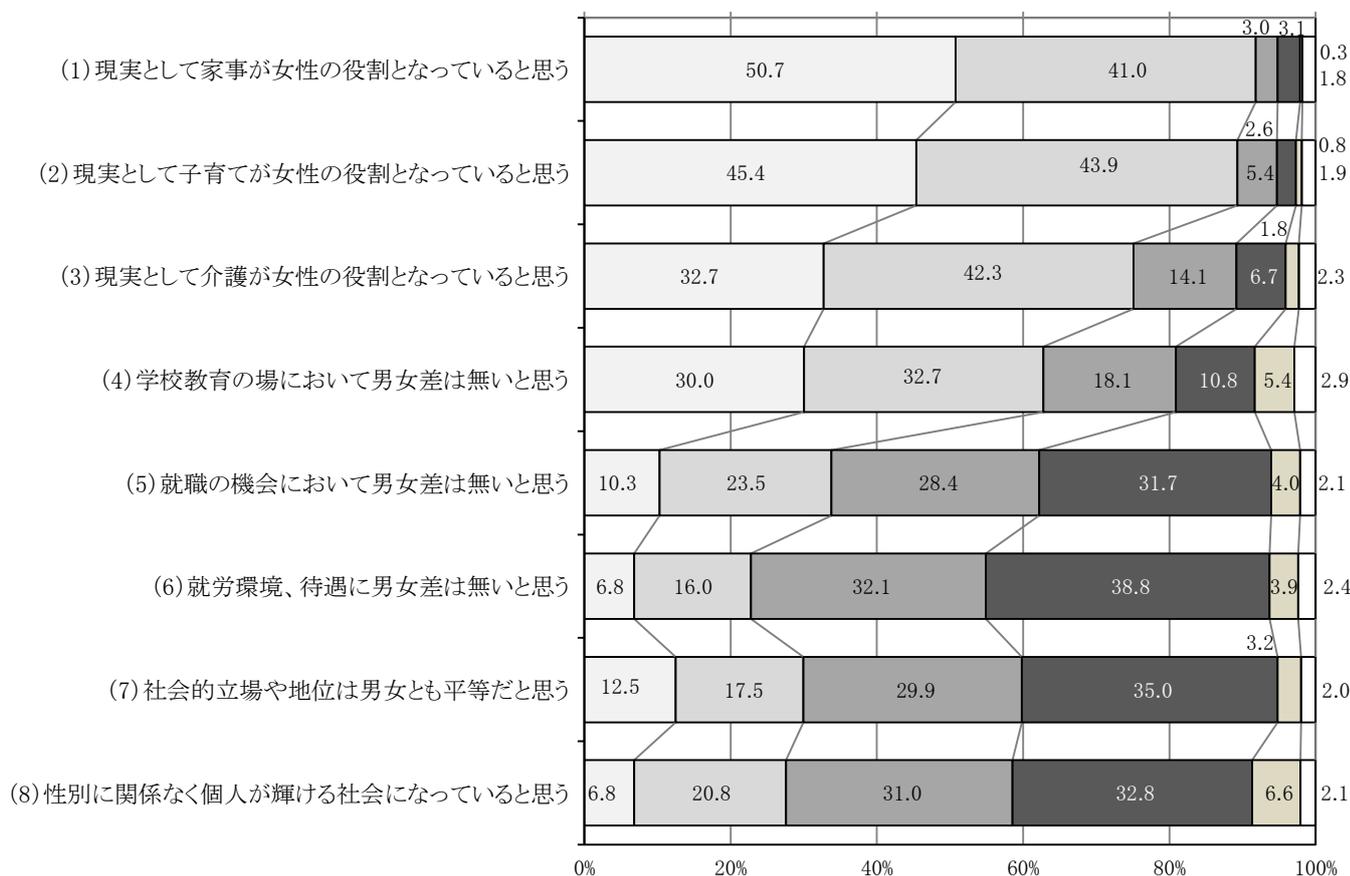


問10 男女に関する役割などについてお聞きします。次の項目(設問)についてどう思われますか、項目ごとに表中のいずれかに○を記入してください。

～現実として「家事、子育て、介護が女性の役割」となっていると思う人が多数～

男女に関する役割などについて、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると「現実として家事が女性の役割となっていると思う」が91.7%（そう思う：50.7%、どちらかと言えばそう思う：41.1%）と最も割合が高く、次いで「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が89.3%（そう思う：45.4%、どちらかと言えばそう思う：43.9%）、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」が75.0%（そう思う：32.7%、どちらかと言えばそう思う：42.3%）となっている。

図32 男女に関する役割 (n=1,450)



□そう思う □どちらかと言えばそう思う □どちらかと言えばそう思わない ■そう思わない □分からない □無回答

問11 女性が結婚や出産後も継続して仕事を続けるために行政の果たす役割はなんだと思いますか。(〇は3つまで) (行政としてすべきことがないと思われる方は「7」のみをお選びください)

～「保育園や幼稚園などの子育て施設や学童保育などの子ども預かり施設の充実」が最も多い～

女性が仕事を続けるための行政の果たす役割について、「保育園や幼稚園などの子育て施設や学童保育などの子ども預かり施設の充実」が67.8%と最も高く、次いで「男性の育児参加や育児休業・休暇取得の促進」が44.3%、「短時間勤務制度や在宅勤務制度、テレワーク制度など多様な働き方の導入促進」が42.2%と続き、『子ども預かり施設の充実と企業への休業・休暇・多様な働き方の導入促進』が上位を占めている。

年代別でみると、10～20歳代は「男性の育児参加や育児休業・休暇取得の促進」、10～50歳代は「短時間勤務制度や在宅勤務制度、テレワーク制度など多様な働き方の導入促進」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の10～30歳代は「男性の育児参加や育児休業・休暇取得の促進」、30～50歳代は「育児休業中の代替職員の確保支援」、40～50歳代は「短時間勤務制度や在宅勤務制度、テレワーク制度など多様な働き方の導入促進」の割合が高い。女性の20～30歳代は「短時間勤務制度や在宅勤務制度、テレワーク制度など多様な働き方の導入促進」、60～80歳代は「男性の育児参加や育児休業・休暇取得の促進」の割合が高くなっている。

図33 女性が結婚や出産後も継続して仕事を続けるための行政の役割  
(n=1,450)

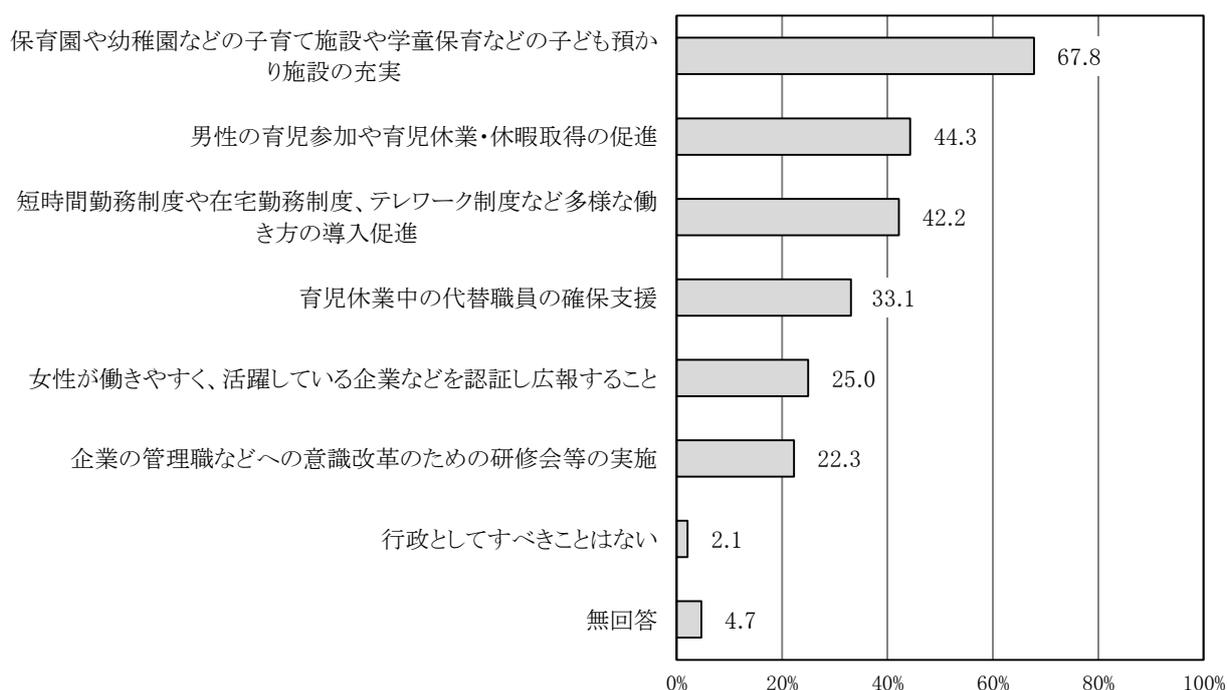
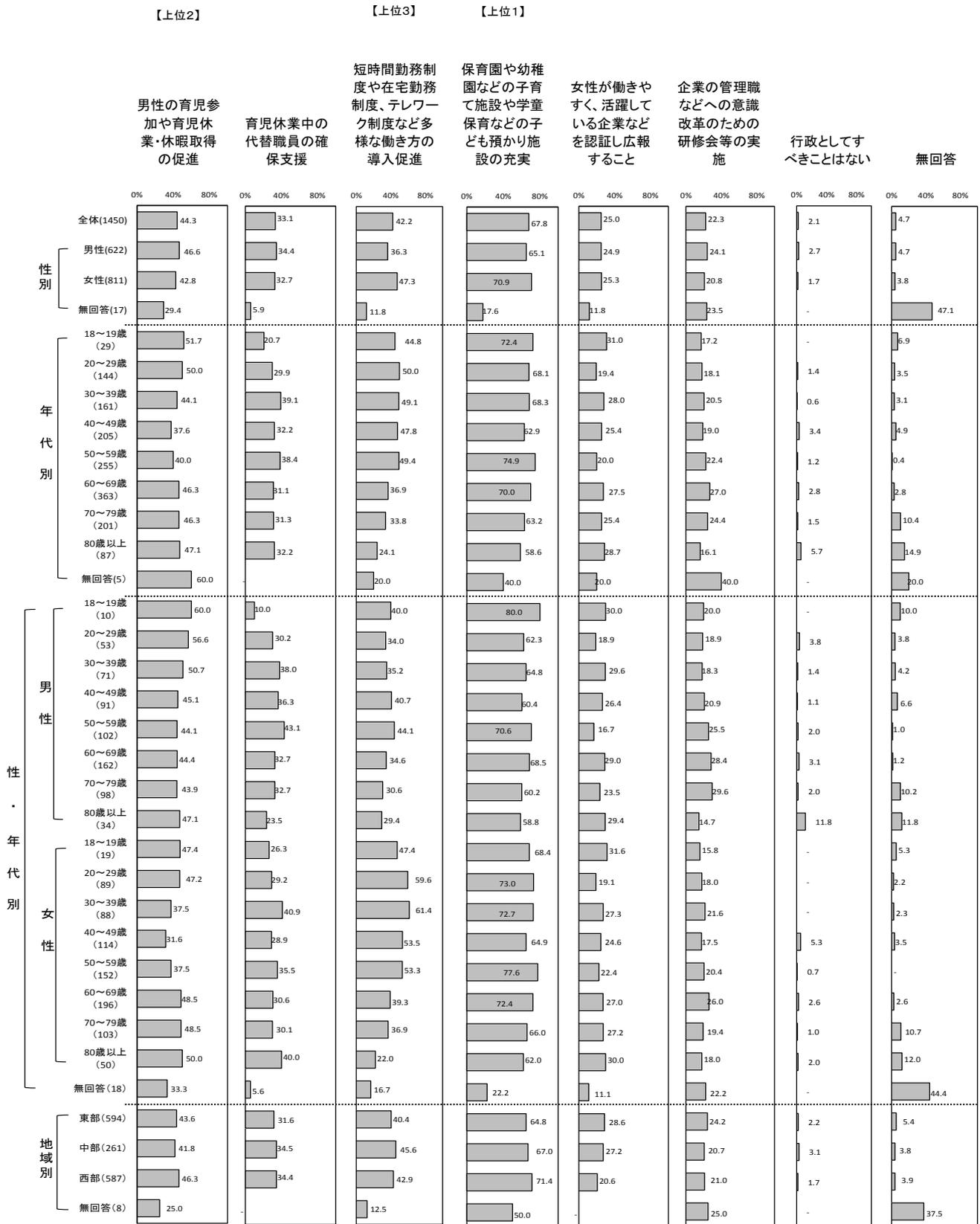


図 34 女性が結婚や出産後も継続して仕事を続けるために行政の果たす役割



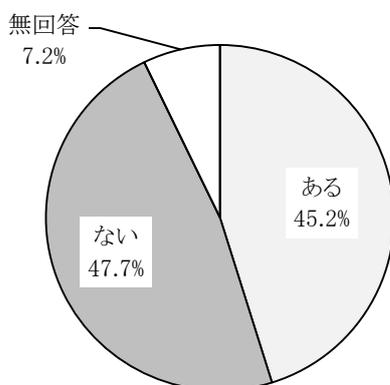
問12 あなたもしくはあなたの家族のうち、家族内での介護(要介護者への介護や身の回りの世話など)の経験がありますか。

～介護をしたのは主に「息子の嫁」「妻」「娘」の回答が高い～

家族内での介護の経験について、「ある」が45.2%、「ない」が47.7%となっている。

実際に介護をしたのは要介護者から見て、「息子の嫁」が25.6%と最も高く、次いで「妻」が14.4%、「娘」が13.4%と続いている。

図35 家庭内での介護の経験の有無  
(n=1,450)



問 12-1 実際に介護をしたのは要介護者からみて主にどなたですか。

図36 実際に介護したのは要介護者からみて主にどなた  
(n=655)

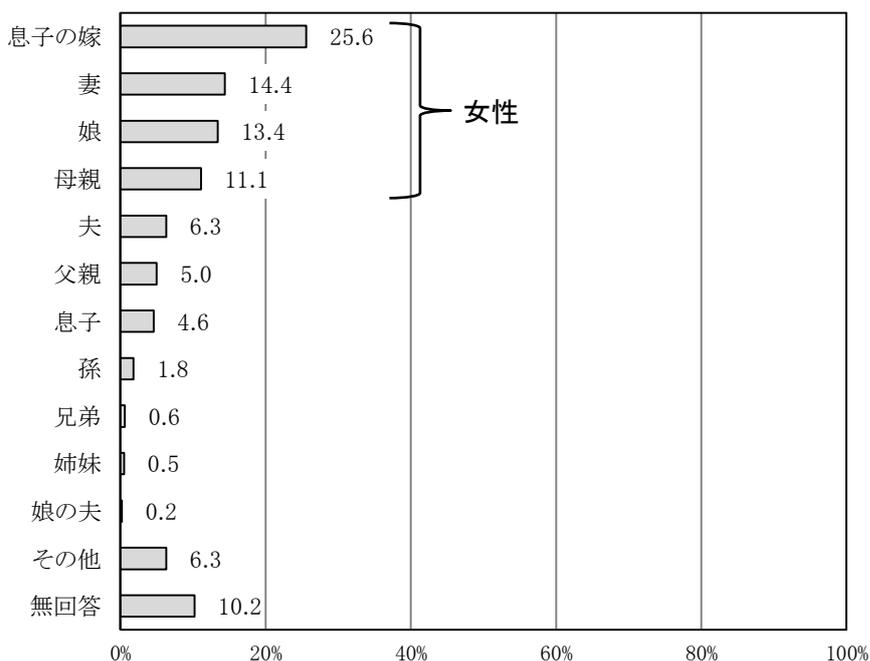
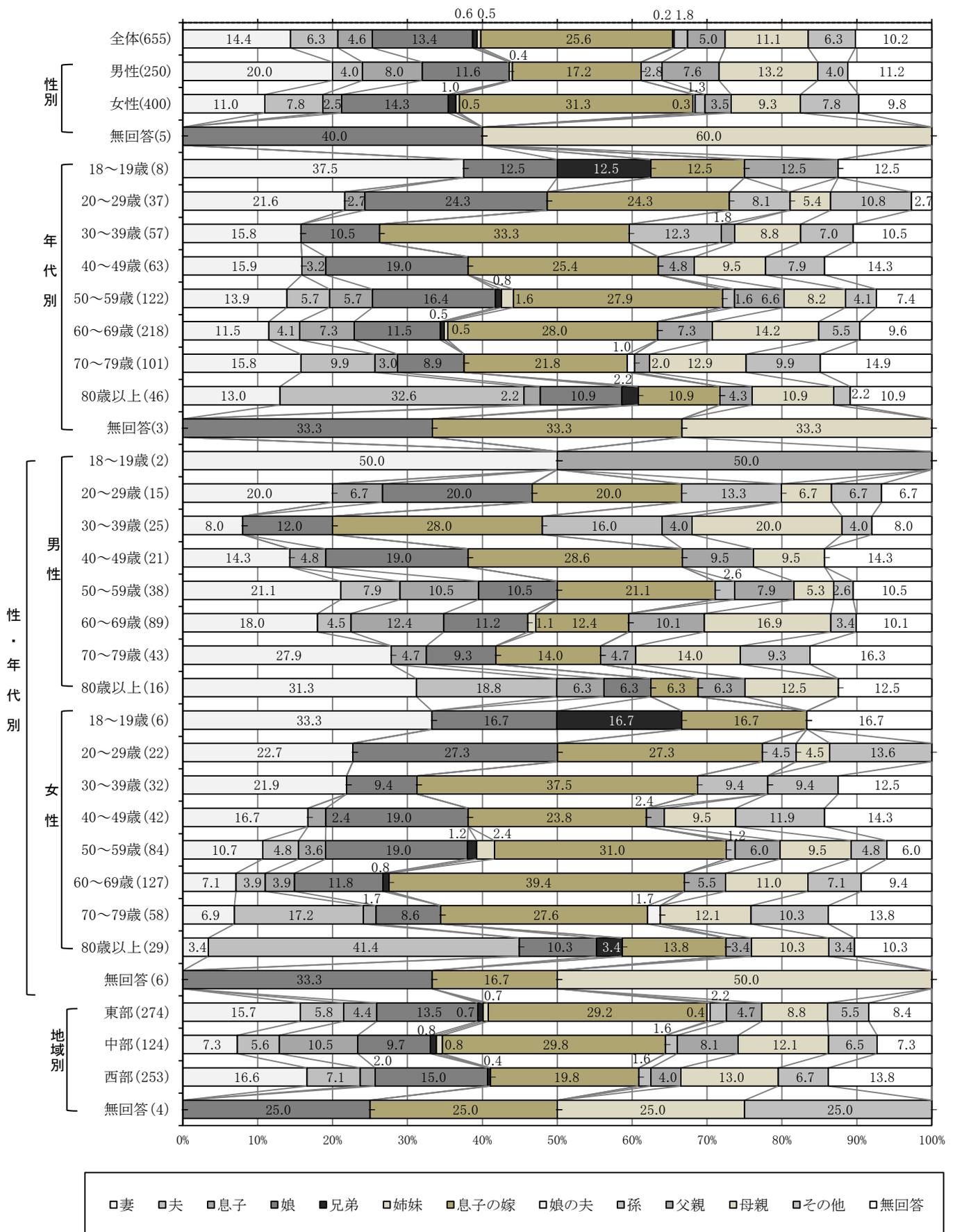


図37 実際に介護をしたのは要介護者からみて主にどなた

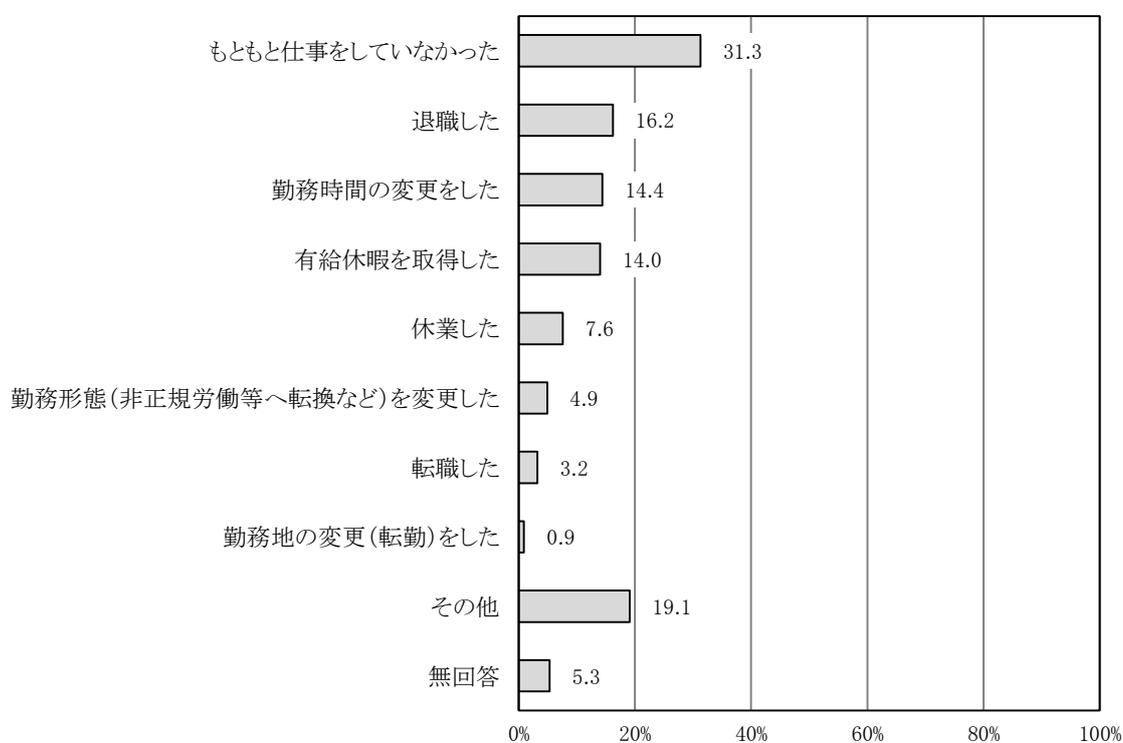


## 問 12-2 介護をするにあたり、介護をした方の仕事への影響

～「退職した」「勤務時間の変更をした」～

介護をした方の仕事への影響は、「もともと仕事をしていなかった」(31.3%)を除き、「退職した」が16.2%、「勤務時間の変更をした」が14.4%とともに高い割合となっている。

図38 介護をした方の仕事への影響  
(n=655)





問13 あなたの家族が要介護者になった際に行政等にしてほしいこと(現在不十分だと思うもの)をお選びください。介護の経験がある場合はその経験から、介護の経験が無い場合は見聞きした範囲でお答えください。(〇は3つまで)

～「要介護者それぞれにあわせた各種サービスの増加」「介護サービスに係る情報提供・相談支援体制の充実」を望む～

家族が要介護者になった際に行政等にしてほしいことは、「要介護者等それぞれにあわせた各種サービスの増加」が52.0%、「介護サービスに係る情報提供・相談支援体制の充実」が51.7%と共に高く、次いで「休暇を取得しやすい職場環境づくりの推進」が37.6%、「働く場における介護休業・休暇制度の整備支援」が35.1%と続き、『各種サービスの増加、情報提供・相談支援と休暇取得のための職場環境づくりと制度整備』への要望が大勢を占めている。

年代別でみると、50～70歳代は「介護サービスに係る情報提供・相談支援体制の充実」「要介護者等それぞれにあわせた各種サービスの増加」、10～50歳代は「休暇を取得しやすい職場環境づくりの推進」の割合が高い。

性・年代別でみると、男性の50～80歳代は「介護サービスに係る情報提供・相談支援体制の充実」、30～50歳代では「休暇を取得しやすい職場環境づくりの推進」が多くみられる。一方女性の30～70歳代は「要介護者等それぞれにあわせた各種サービスの増加」、20～30歳代では「短時間勤務制度や在宅勤務制度、テレワーク制度など働く場における多様な働き方の導入促進」の割合が高くなっている。

図40 家族が要介護者になった際に行政等にしてほしいこと  
(n=1,450)

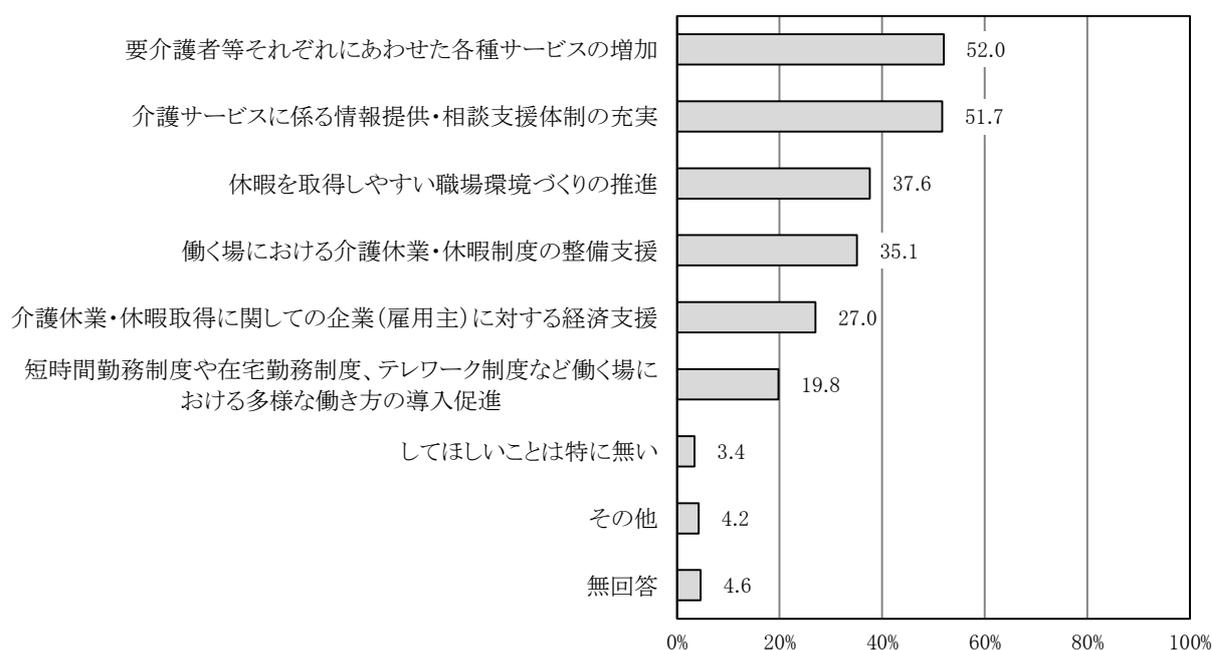
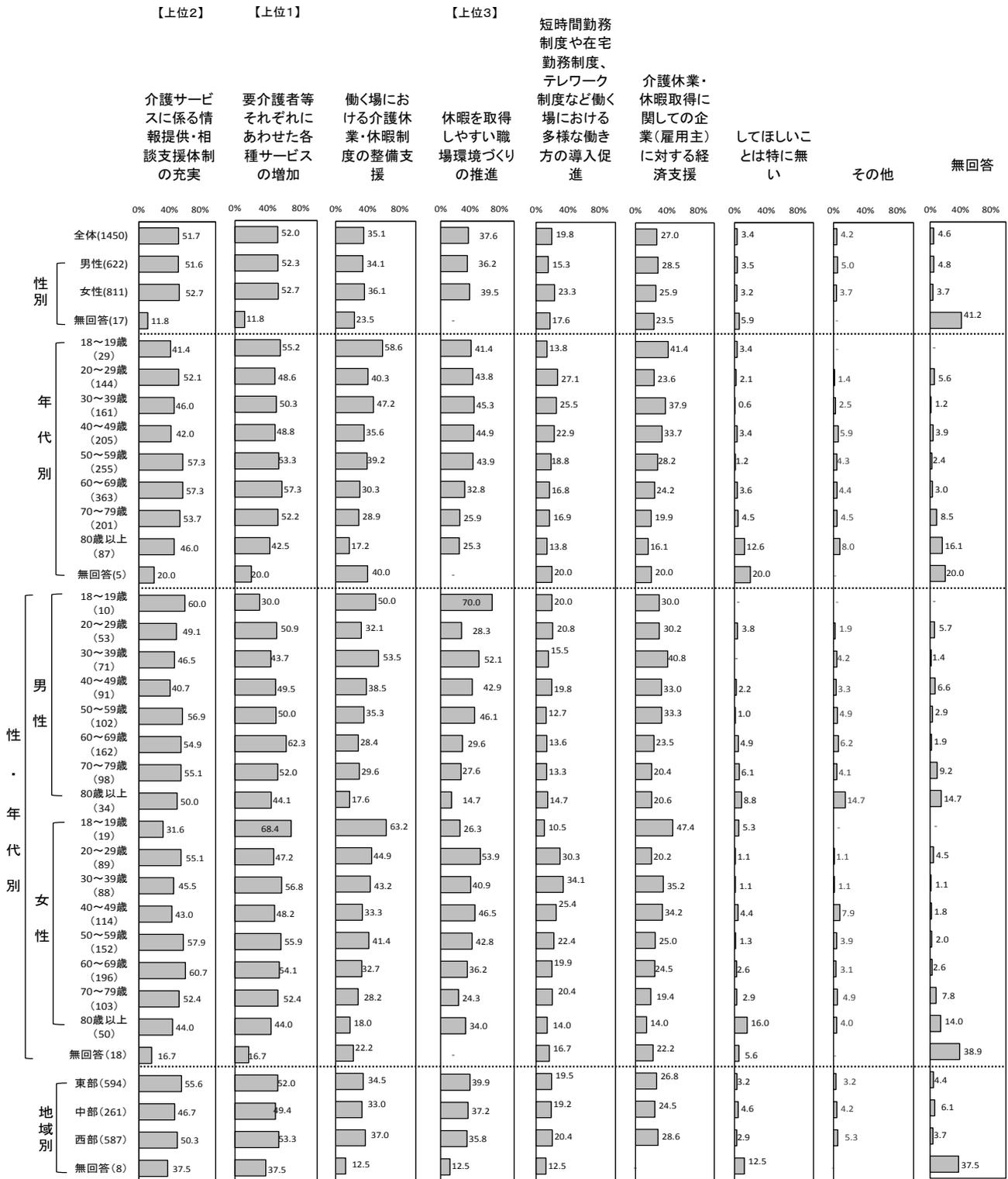


図 41 家族が要介護者になった際に行政等にしてほしいこと



## <出生率について>

問14 鳥取県における希望出生率(1.95)を実現するために、次のどの項目を今後強化していくべきだと思いますか。あなたが重要だと思う項目を次の中からお選びください。(〇は3つまで)  
(※希望出生率とは、結婚して子どもを産みたいと言う人の希望が叶えられた場合の出生率)

～「出産・育児で仕事を離れた方がスムーズに社会復帰できる環境や、男女ともに子育てしながら安心して働くことのできる職場環境の整備」「子どもを安心して預けられる体制の整備(保育所・認定子ども園などの増加)」を今後強化すべき～

鳥取県における希望出生率(1.95)を実現するために今後強化すべきことは、「出産・育児で仕事を離れた方がスムーズに社会復帰できる環境や、男女ともに子育てしながら安心して働くことのできる職場環境の整備」が51.3%、「子どもを安心して預けられる体制の整備(保育所・認定子ども園などの増加)」が50.8%と共に高く、次いで「保育料の減免など、子育て世帯への経済的支援」が44.9%と続いている。

性別でみると、男性は、「保育料の減免など、子育て世帯への経済的支援」女性は、「不妊治療にかかる費用の経済的支援」「出産・育児で仕事を離れた方がスムーズに社会復帰できる環境や、男女ともに子育てしながら安心して働くことのできる職場環境の整備」が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の50～70歳代で「子どもを安心して預けられる体制の整備(保育所・認定子ども園などの増加)」、20～60歳代で「保育料の減免など、子育て世帯への経済的支援」が高く、女性の30～40歳代で「不妊治療にかかる費用の経済的支援」、10～30歳代で「保育料の減免など、子育て世帯への経済的支援」が高くなっている。

図42 希望出生率の実現のために、強化していくべき項目  
(n=1,450)

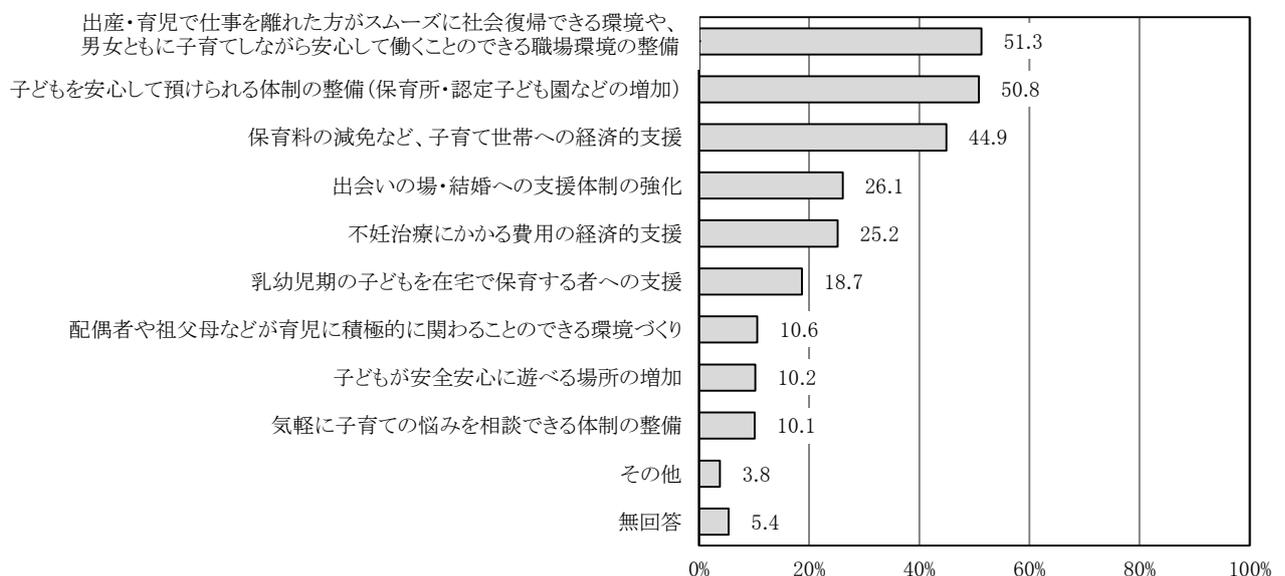
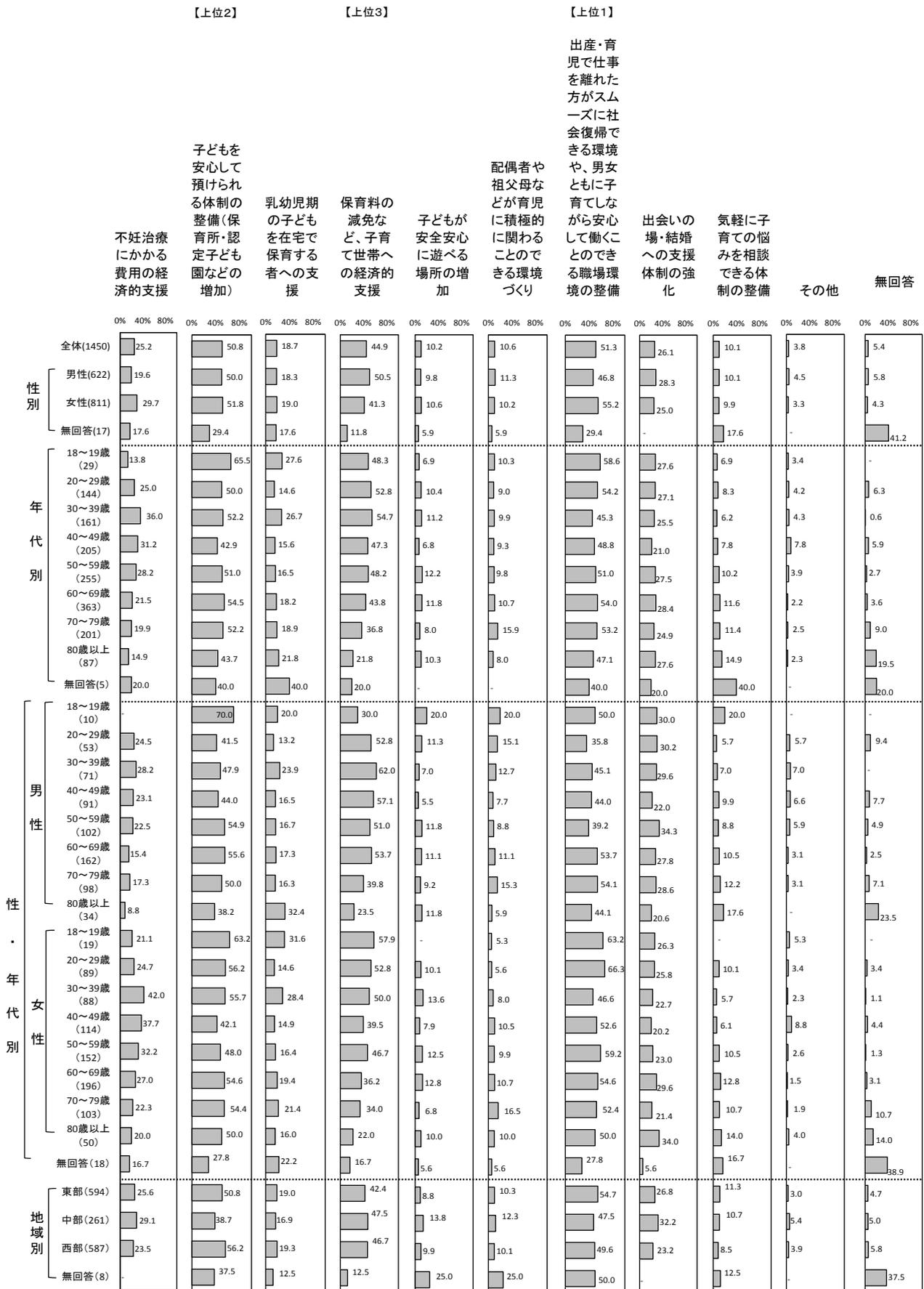


図 43 希望出生率の実現のために、強化していくべき項目



問15 若い世代の未婚化、晩婚化傾向に歯止めをかけるため、行政で取り組むべきと思われる施策はどれだと思いますか。(〇は3つまで)

～「出会いの機会の創出や結婚に関する相談受付などによる若い世代の結婚サポート」が最も高い～

若い世代の未婚化、晩婚化傾向に対する行政の施策は、「出会いの機会の創出や結婚に関する相談受付などによる若い世代の結婚サポート」が47.8%と最も高く、次いで「鳥取の充実した子育て支援策や人生収支(ライフコスト)からみた鳥取で暮らすメリットなどの情報を県内外に発信」が40.2%、「若い夫婦向けの、家財や土地、職などの斡旋や補助」が38.8%と続いている。

年代別でみると、40～70歳代で「鳥取の充実した子育て支援策や人生収支(ライフコスト)からみた鳥取で暮らすメリットなどの情報を県内外に発信」、50～70歳代で「若年層でも結婚子育てのできる環境をアピールする取組」、10～30歳代で「若い夫婦向けの、家財や土地、職などの斡旋や補助」の割合が高い。

性・年代別でみると男性の30歳代、50～70歳代は「出会いの機会の創出や結婚に関する相談受付などによる若い世代の結婚サポート」、40～80歳代は「鳥取の充実した子育て支援策や人生収支(ライフコスト)からみた鳥取で暮らすメリットなどの情報を県内外に発信」、女性の10～30歳代は「出会いの機会の創出や結婚に関する相談受付などによる若い世代の結婚サポート」、30～60歳代では「鳥取の充実した子育て支援策や人生収支(ライフコスト)からみた鳥取で暮らすメリットなどの情報を県内外に発信」の割合が高い。

図44 若い世代の未婚化、晩婚化傾向に歯止めをかけるための行政の取組み (n=1,450)

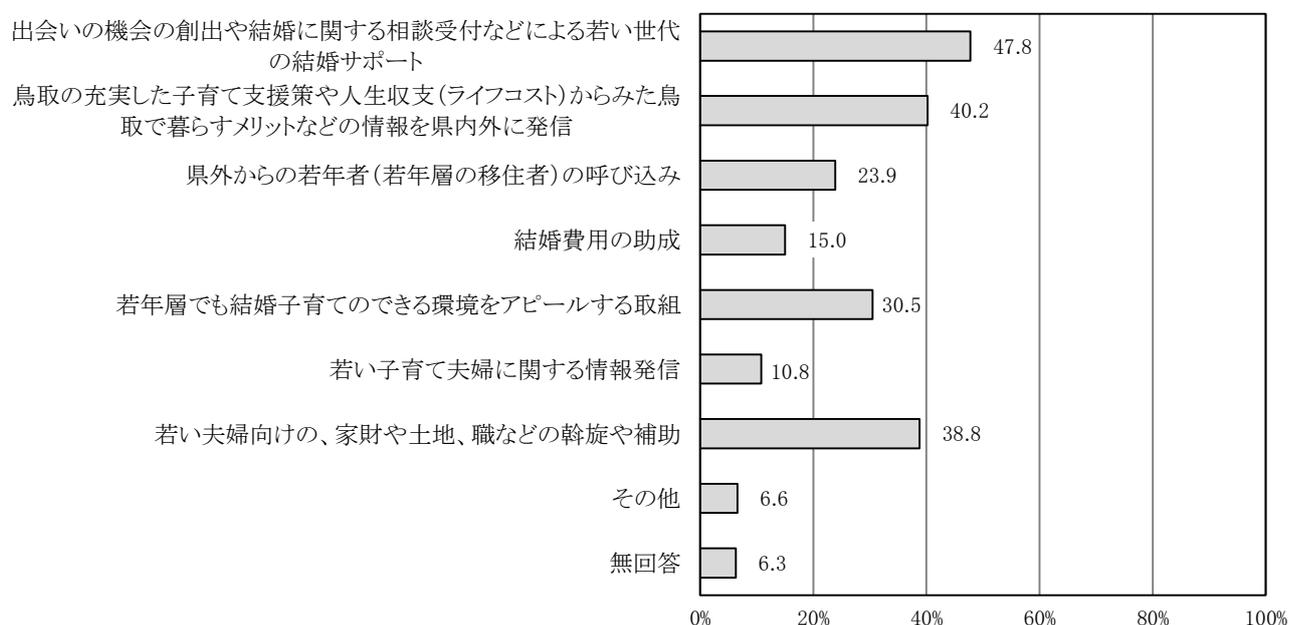
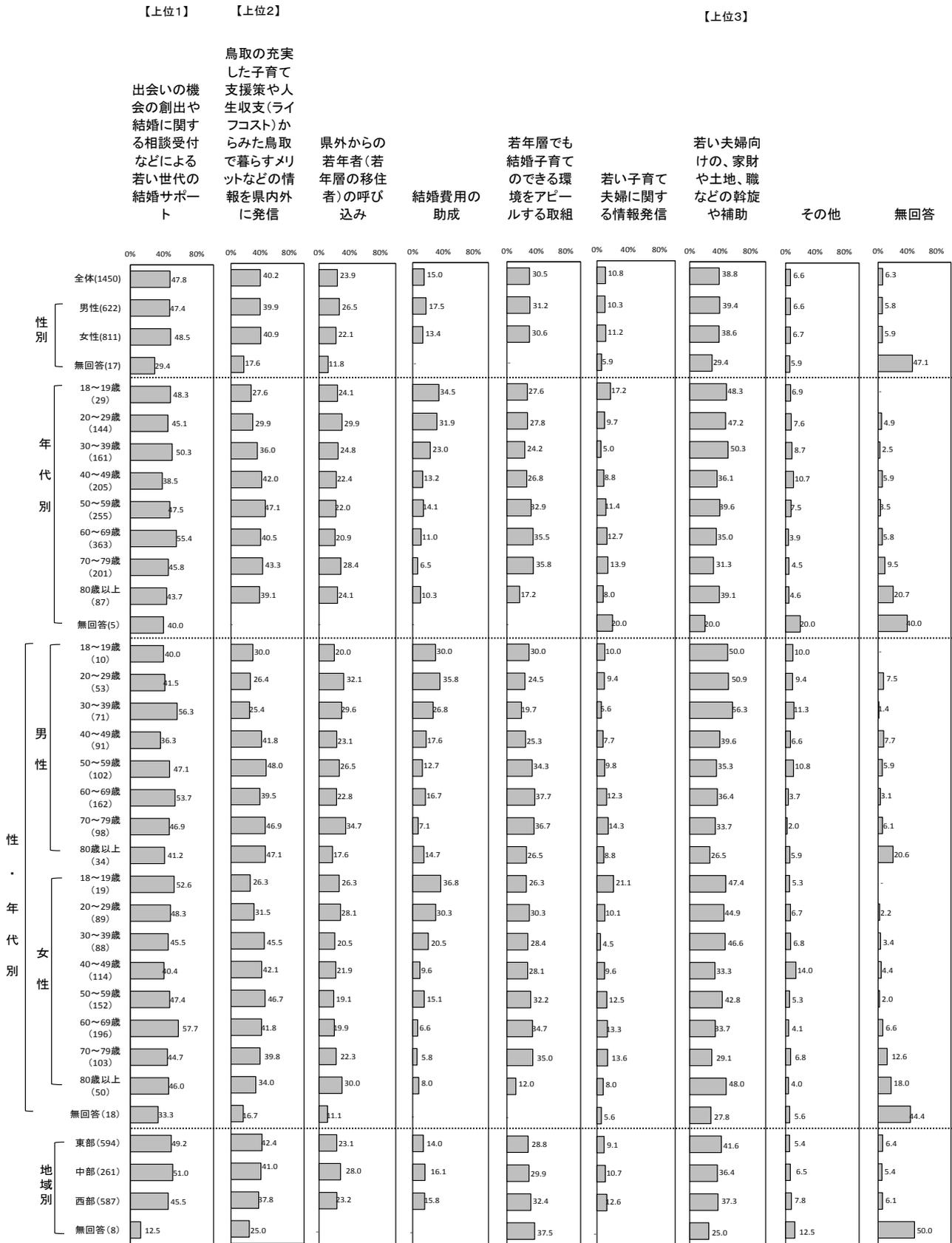


図 45 若い世代の未婚化、晩婚化傾向に歯止めをかけるための行政の取組み



## <あなたの幸福度について>

問16 鳥取県に暮らしていて、あなたは今どの程度「幸せ」ですか。

～「5普通」以上が約8割～

鳥取県に暮らしていてあなたの幸福度について、「5普通」が27.4%と最も高く、「8」が18.9%、「7」が17.7%、「6」が11.2%と続き、「5普通」以上の回答は85.9%である。

図46 鳥取県に暮らして、「幸せ」ですか  
(n=1,450)

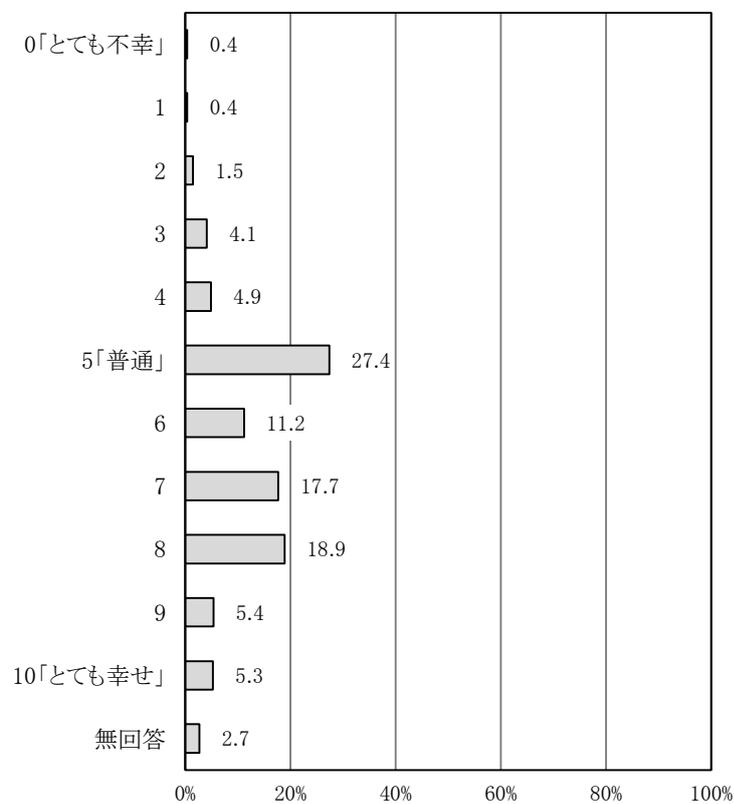
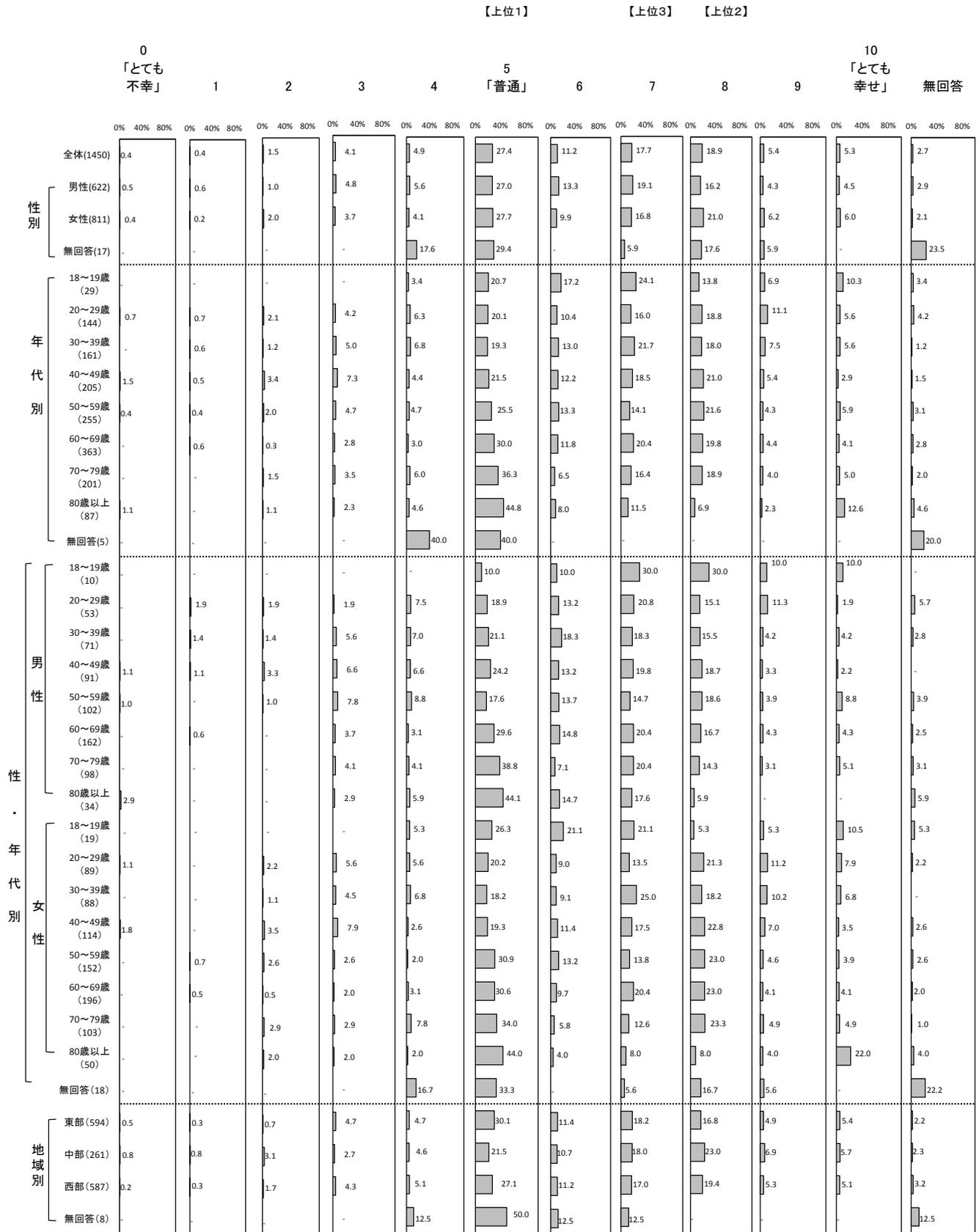


図 47 鳥取県に暮らして、「幸せ」ですか



問17 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することはなんですか。  
 (〇はいくつでも)

～「自身の健康の状況」「家計の状況」が6割以上～

幸福度を判断するときに重視することは、「自身の健康の状況」が64.1%と最も高く、次いで「家計の状況」が62.5%、「家族関係」が53.7%と続いている。

年代別でみると、30～60歳代は「家計の状況」、40～80歳代は「自身の健康の状況」、10～30歳代は「自由な時間(充実した余暇)」「友人関係」、10～50歳代は「精神的なゆとり」が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の30～50歳代は「家計の状況」、20～30歳代は「自由な時間(充実した余暇)」、10～50歳代は「仕事(学校)の充実度」が高くなっている。一方、女性の30～60歳代は「家計の状況」、10～20歳代は「自由な時間(充実した余暇)」「職場(学校)の人間関係」、30～50歳代は「家族関係」が高くなっている。

図48 「幸福度」の判断で重視すること  
 (n=1,450)

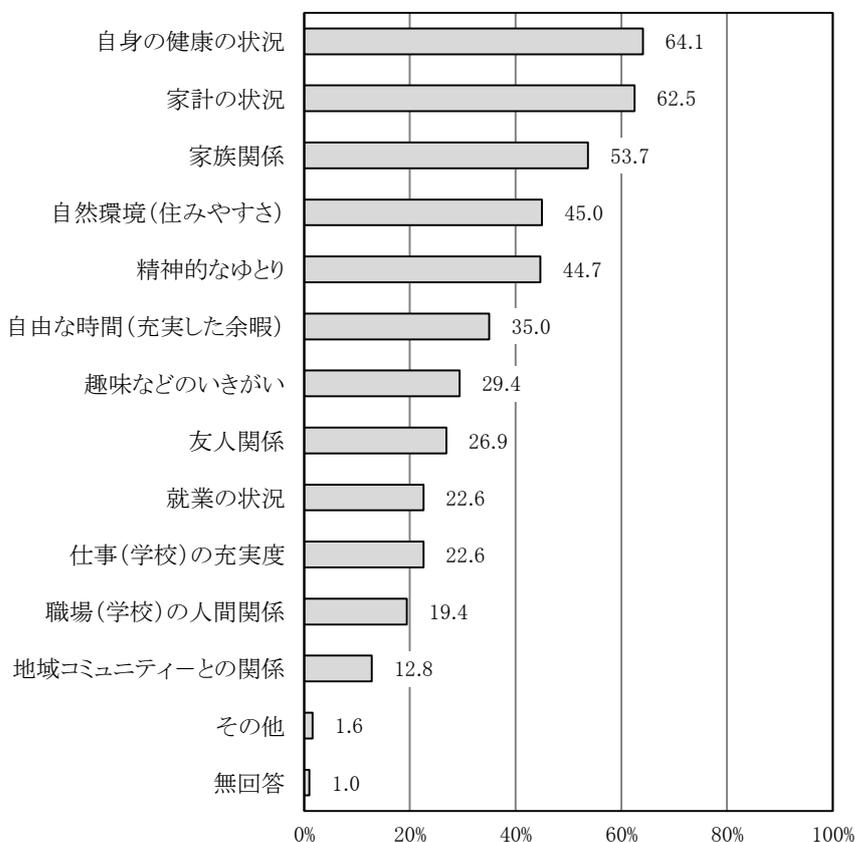
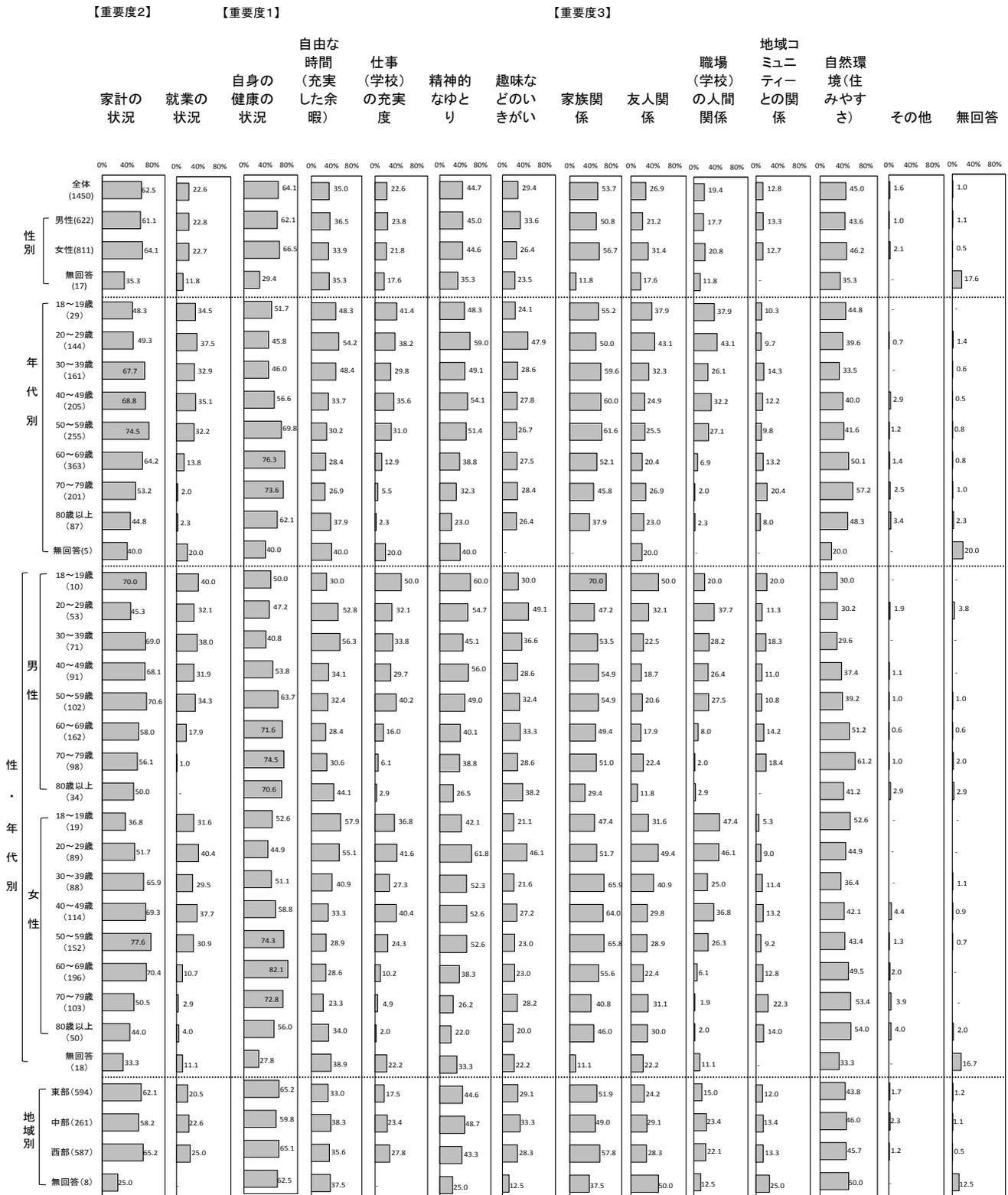


図 49 「幸福度」の判断で重視すること



県民の多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

問7 男性の育児参加を促進するために、行政がとるべき必要な施策は何だと思えますか。

○大人になって仕事をするようになってから促すのではなく、子どもの頃からそれが当然だという考えを持つような教育があれば良いと思う。 ◆(18～19歳 女性 鳥取市)

問8 鳥取県内は男性の育児休業取得率は3%未満です。男性の育児休業取得が進まない要因は何だと思えますか。

○共働きであれば、男女とも子育ての苦勞・工夫すべき。親のそのまた親世代の活用・応援をしては？じいちゃん・ばあちゃんの出る幕！！そして保育士の負担軽減をする。 ◆(60～69歳 女性 鳥取市)

○経営者、上司等の理解と言うより、女性社員も何で男性が取るの？と言う意識もある。周りの人に気を使って取らないというもある。 ◆(30～39歳 男性 米子市)

○人手不足のため、会社として長期間社員が離脱することは許容でない。 ◆(30～39歳 男性 米子市)

問12-1(2) 介護をするにあたり、介護をした方の仕事への影響を教えてください。

○農業をしていたので量(面積)を減らした ◆(60～69歳 女性 米子市)

○自営業だったので、あてはまらない。介護していたのは母だったが、仕事と介護と家事と日々辛そうだった。自営業だと有給や休業、転職や勤務時間の変更等難しいと思うので、そういう人たちへの支援も何かあれば良いかもしれない。 ◆(20～29歳 女性 鳥取市)

問13 あなたの家族が要介護者になった際に行政等にしてほしいこと(現在、不十分だと思うもの)をお選びください。介護の経験がある場合はその経験から、介護の経験が無い場合は見聞きした範囲でお答えください。

○安価で安心して利用できる施設があること。自営業者や農業者は働く時間を削ると即収入がなくなる。自営業者は勤めていないから介護しやすい訳ではない。逆に支援が少ないと感じる。 ◆(50～59歳 女性 倉吉市)

○市内はサービスが充実しているが、田舎に住んでいる人はサービスが受けられない事が多い。よって孤立化している。町内でもド田舎と言われる集落にいるとサービスが限られる。 ◆(40～49歳 女性 米子市)

○行政として、介護施設で介護を行う場合、それなりの費用が掛かるのだが、現行では在宅介護する場合は費用は自己負担が殆どである。バランスのとれた施策(助成)を考えてほしい。 ◆(80歳以上 男性 倉吉市)

問14 鳥取県における希望出生率(1.95)を実現するために、次のどの項目を今後強化していくべきだと思いますか。

○正規雇用の拡充と賃金の上昇 ◆(60～69歳 男性 米子市)

○男女共同参画により、職場においても女性は生きがいを感じ、その反面、老後の資金の不安ももっている。出生率は個人の考えの問題ではなく、核家族化、教育費の増大等、社会的な背景がとても大きいと思われる。だからこそ社会的援助がもっと拡大されるべき。医療費530円を無料にする、児童手当の増額、受給期間延長、保育時間延長、諸学校授業料減額、育児手伝い事業(有償可) ◆(40～49歳 女性 鳥取市)

○希望出生率の実現には子育て支援以前にまず「子供を産める支援」が必要だと思います。子供を産みたくても産めなかった人はたくさんいます。不妊治療にもたくさん費用が必要です。不妊治療中に行政の人や病院の医師の心無い言葉で治療をやめる人もいます。子育て支援も大事ですが、出生率を上げる近道は治療の費用支援と心のケアサポートが特に大事だと思います。 ◆(40～49歳 女性 米子市)

問15 若い世代の未婚化、晩婚化傾向に歯止めをかけるため、行政で取り組むべきと思われる施策はどれだと思いますか。

- |   |
|---|
| ○若年者のベンチャービジネスに対する公的投資制度。例えば、10年程度の償還免除の無利子融資や県が主催するファンド(クラウドファンディング)など。 ◆(50～59歳 男性 鳥取市) |
| ○鳥取東部の経済状況の改善。男性のワークライフバランスの改善(企業など) ◆(30～39歳 男性 鳥取市)                                     |
| ○行政が取り組む必要はない。個人の問題である。 ◆(60～69歳 女性 鳥取市)  |

問18 あなたがもっと「幸福」となるために、鳥取県に今後期待することがあれば自由にお書きください。

- |  |
|--|
| ○若者が県内に残りたいと思える環境づくり ◆(40～49歳 男性 米子市)  |
| ○とにかく若者が余暇に”やることがない”。遊び場。高齢者、子供に対する手当だけではムリ。若者が閉塞感を覚え、充実感がないのであれば、当然有能な人材は流出する。 ◆(20～29歳 男性 米子市)                     |
| ○賃金の引き上げ、最低賃金も安すぎる。シングルマザーが住みやすくしてほしい(経済面など)。介護を要する人へのサービス向上、福祉の充実。 ◆(30～39歳 女性 鳥取市)                                 |
| ○健康寿命を延ばすための取り組み(障害学習、生涯スポーツの更なる取り組み)(介護期間が短くなる)芸術、文化活動の振興。観光地の環境整備。 ◆(60～69歳 男性 米子市)                                |
| ○文化や街づくりを考えてほしい。個人の趣味、考えだけで家を建てたり、ビルを壊したりするのではなく、美観地区を作り、街の景観は歴史ある街並みを目指してほしい。 ◆(30～39歳 男性 米子市)                      |
| ○若い人がもっと暮らしやすい環境が必要。正社員の仕事が多くあれば、結婚にも希望が持てるし、子育てにも不安がなくなる。行政がどうだからという訳ではないと思うが、仕事がパートばかりで若い人が定着しない。 ◆(60～69歳 女性 倉吉市) |